

富山県知事賞

家族がふえた日

富山市立神保小学校 4年 南 奏

れい和5年2月4日、わが家に赤ちゃんがたん生した。わたしにとって2番目の妹だ。

その十か月前、ママとパパからわたしと妹へサプライズほうこくがあった。なんと、ママのおなかに赤ちゃんがやって来てくれたのだそう。そのころのわたしは、周りの友達に弟や妹が生まれていて赤ちゃんっていいなと思っていた。そんなわたしにもう一人妹が生まれるのだと思うととても幸せな気持ちになった。と同時に今からママのおなかの中にいる妹に毎日話しかける日々が始まった。

わたしが、「奏ねえねだよ。早く会いたいよ。」と笑顔で伝えるわたしを見てパパとママは「ありがとう」と言ってくれた。

そして、2月4日ママはじんつうがきて、病院に入院した。その時はまだコロナ対さくで家族は病院には入れなかったので病院のげん関でママに「がんばって赤ちゃんを生んでね。」と言って見送った。

それから数時間後、妹がたん生した。生まれたばかりの妹は、小さな天使のようにかわいかった。ママとのテレビ電話を切った後、急にさみしい気持ちがあふれてきた。これから5日間パパと妹とわたしの3人で助け合おうねと約束して毎日を過ごした。まだようち園の妹はママがいないととてもさみしそうにしていたので、わたしはたくさんいっしょに遊んだ。ママが作っておいてくれたご飯を食べるととても幸せな気持ちになった。わたしもママがいなくてさみしいのだとそこで分かった。早くママの顔が見たい、そう思った。

そしてたい院前日、パパと妹とわたしでママのたい院をお祝いするために部屋にかざりつけをしてママの帰りを待った。

次の日ママが2番目の妹をだっこしてわが家に帰って来た。わたしはママの顔を見たしゅん間、ぎゅっとだきついた。ママは、「ずっと妹のお世話をありがとう。よくがんばったね。」と言ってくれた。たった5日間だったけれど長い5日間だったように思う。それはきっと家族全員が同じ気持ちだったのだと思う。

2番目の妹のたん生は、わが家にとって一大イベントだった。家族のだれか一人でもかけてしまうと全くちがう毎日になることが分かった。これからもわが家はみんなでワンチーム。何があっても家族全員で助け合っていこうと強く思った。

ママと2番目の妹が帰ってくるまでにたくさんがんばった。パパと妹、そしてわたしにもとく大の花丸をあげたい。

ようこうそわが家へ、わたしの大切な2番目のかわいい妹。これからもよろしくね。生まれて来てくれてありがとう。